

「大阪市ボランティア活動振興基金」アンケート調査結果
【交付団体】

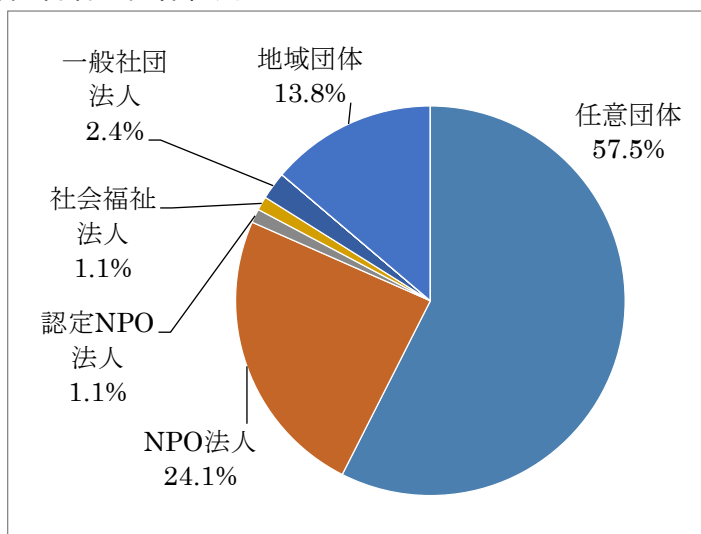
調査期間：平成 28 年 10 月 14 日（金）～平成 28 年 10 月 28 日（金）

対 象：平成 27 年度に実施した基金交付団体

送 付 数：144 団体

回 答 数：87 団体 【回答率：60.4%】

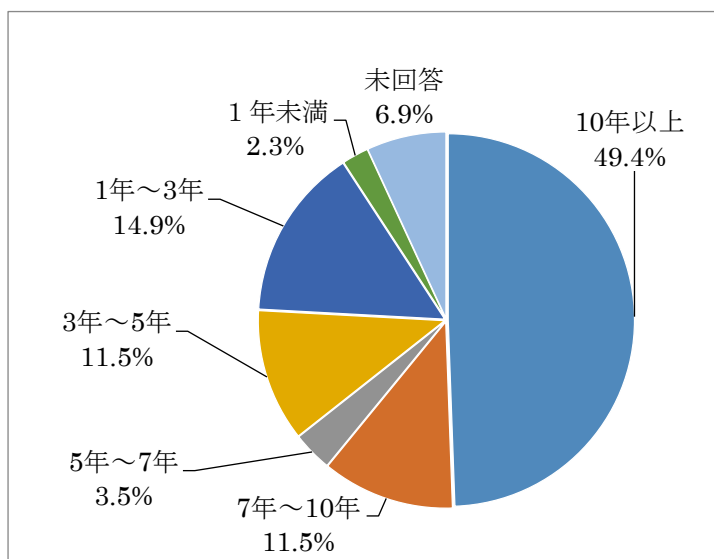
①回答者の団体種別



	団体数 (団体)	割合 (%)
任意団体	50	57.5
NPO法人	21	24.1
地域団体	12	13.8
一般社団法人	2	2.4
認定NPO法人	1	1.1
社会福祉法人	1	1.1
合計	87	100

任意団体・NPO法人・認定NPO法人が全体の82.7%であった。

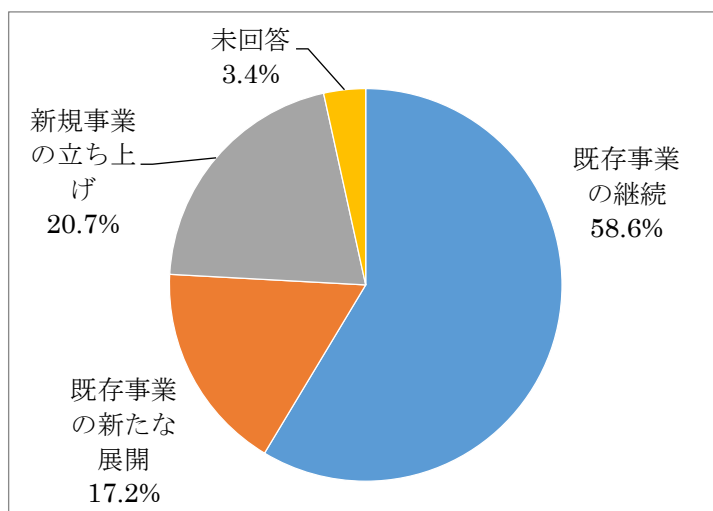
②設立年数



	団体数 (団体)	割合 (%)
10年以上	43	49.4
7年～10年	10	11.5
5年～7年	3	3.5
3年～5年	10	11.5
1年～3年	13	14.9
1年未満	2	2.3
未回答	6	6.9
合計	87	100

団体設立年数は10年以上が約5割である。

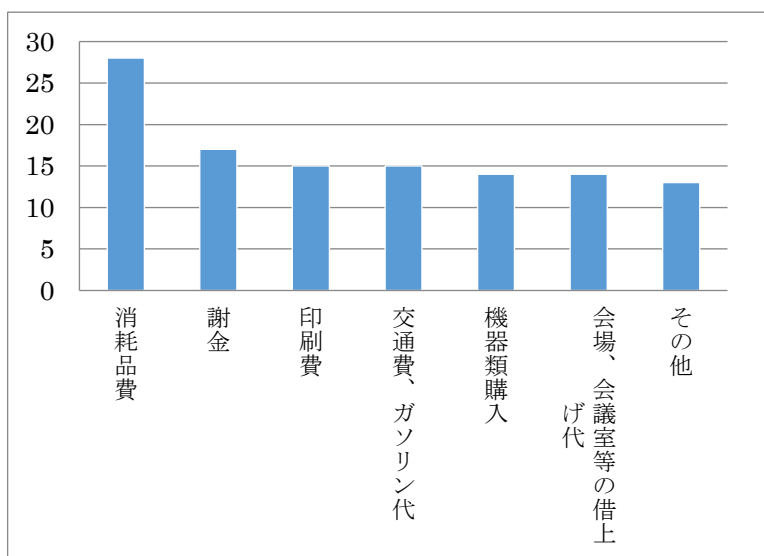
③振興基金交付を受けた事業について



	団体数 (団体)	割合 (%)
既存事業の継続	51	58.6
既存事業の新たな展開	15	17.2
新規事業の立ち上げ	18	20.7
未回答	3	3.4
合計	87	100

基金を受けた事業は、58.6%が継続、既存事業の新たな展開が17.2%、新規事業が20.7%だった。

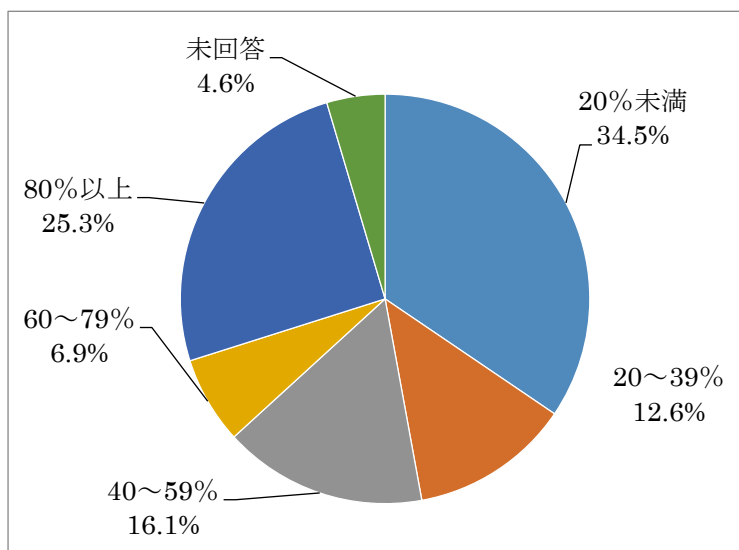
④振興基金の使途について（複数回答あり）



	団体数 (団体)
消耗品費	28
謝金	17
印刷費	15
交通費、ガソリン代	15
機器類購入	14
会場、会議室等の借上げ代	14
その他	13
合計	116

基金の使途は全体に均等である。しいて言えば消耗品が多い。

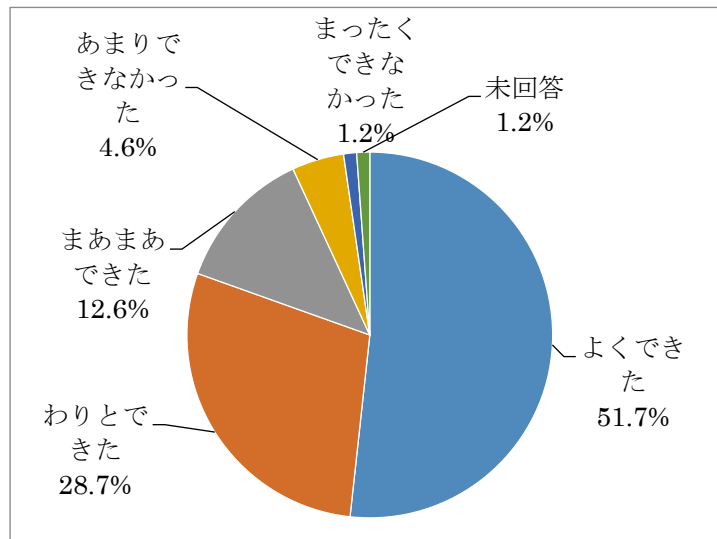
⑤団体事業資金のうちの助成金の割合について



	団体数 (団体)	割合 (%)
20%未満	30	34.5
20~39%	11	12.6
40~59%	14	16.1
60~79%	6	6.9
80%以上	22	25.3
未回答	4	4.6
合計	87	100

資金のうち、助成金の割合は 20%未満が約 35%、80%以上が 26%と、両極に分かれている。

⑥事業目的の達成度（感想）



	団体数 (団体)	割合 (%)
よくできた (90%以上)	45	51.7
わりとできた (70%以上)	25	28.7
まあまあできた (50%以上)	11	12.6
あまりできなかった (20%以上)	4	4.6
まったくできなかった (20%未満)	1	1.2
未回答	1	1.2
合計	87	100

達成度は、93%が「できた（よくできた、わりとできた、まあまあできた）」と回答している。

⑦事業達成のうえで課題になったこと

- ・メンバー不足（×12）
- ・メンバーの高齢化（×5）
- ・広報、事業の周知（×4）
- ・他機関・行政との連携をどうしていくか。（×3）
- ・活動資金の自己負担（×3）
- ・会場、練習場所の確保（×3）
- ・費用（材料費やチラシの印刷費）
- ・担い手の養成についての費用が課題。
- ・活動場所の設備が不足している。
- ・事業にあった施設（物件）がなかなか見つからなかった。
- ・常設するための場所と賃料などの費用
- ・少人数で運営している団体なので、1人何役も果たさなければ成り立たない。事務的処理に手間取った。
- ・子育て中の母親を中心として活動しているが、子どもが成長するにつれて再就職する団員が年々増え、その結果、活動依頼があっても、仕事や家庭との兼ね合いで都合がつきにくい団員が多くなり、活動に最低限必要な人数を揃えることが難しい。
- ・はじめての取り組みであったので、そのノウハウが分らなかった。
- ・集客とプログラムの多様化
- ・助成金に依存しない運営体制、CBの促進。
- ・人が集う会を開いているので、たくさんの人に来てほしい一方で、今来ていない人たちが、来づらくなならないように、場の関係性を作っていくことが課題でした。
- ・会員からの会費で会の運営をまかなっている。会場費は支出としても大きいので、助成金をいただくことで定例会が継続出来ている。

⑧上記課題をどのように乗り越えましたか

- ・区社協職員に相談した。（×4）
- ・チラシ配り、SNS利用等で広く呼び掛けを続けている。（×2）
- ・市ボラセンの職員にアドバイスを受けたら、同様の活動をしている団体を紹介してもらった。
- ・大阪ボランティア協会や、他の委員の方に個別に相談し乗りきった。
- ・ホームページを開設し、宣伝、PRに力を入れた。
- ・従来のSNSによる広報に加え、対象者の日常の拠点となる場、つどいの広場での情報提供を安定化させた。
- ・ポスター、チラシ等で周知、また、会館でのふれあい喫茶を利用
- ・色々な場で活動の発表、PR活動を行う。他団体の定例会への見学を行う。
- ・地域の連合町会、地活協、社協との連携を活かして広報を強化した（回覧板の活用と民生委員さんが協力してくれた）
- ・活動グループ同士で団結した。
- ・本基金の「居場所の改修」という主旨が事業の新たな展開に合致し、宿泊も見据えた新たな試み

につながった。

- ・事業趣旨を広報し、寄付を募って財源を調達した。
- ・助成金で多くをまかなえた。
- ・会の繰越金から予算不足分を補充した。
- ・代表自身の自費投資。
- ・会員数に合わせて利用者への活動日数を減らすという直接的な対処で継続している。
- ・少ない人数でもできるよう事業を見直した。
- ・乗り越えられなかった。
- ・身近な知り合い、親せきに頼んだ。
- ・情報発信を含め、新たに加わるメンバーと運営について話し合う時間を多く取った。
- ・有償ボランティアの考え方の導入。チラシやロコミで知り合いの範囲から広げた。
- ・一般社団法人設立を検討した。
- ・ボランティアでは限界にあると感じ、専門家に依頼した。
- ・外国人住民へ直接広報をおこなった
- ・別途施設を借りた

⑨達成できなかったこと

- ・広報の不足 (×4)
- ・活動に参加する人材の確保 (×3)
- ・飲食するだけでなくレクリエーションができなかった
- ・アンケートを通して、全体的な傾向及び個別の悩みを把握することはできたが、区あるいは連合町会単位での傾向を把握することができなかった。
- ・対象である若い人達が主体となるイベントの種類を増やすには至らなかった。
- ・材料代(陶芸の土)が助成金の対象にならないので子どもたちが参加がむづかしくなった

⑩達成できなかった理由

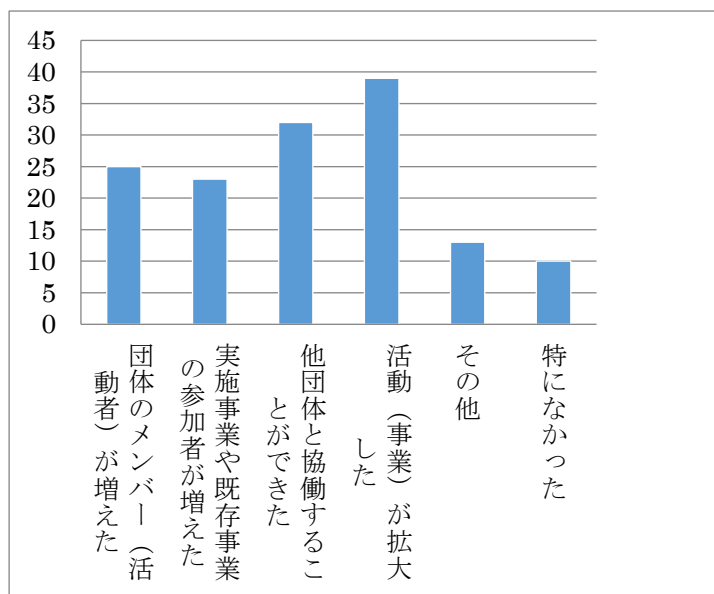
- ・予算上の制約
- ・年齢のバラツキがあり全員一緒に行くことが難しい。
- ・周知が足りない。
- ・イベントで扱う飲食や物販における配慮事項を、当団体単体ではクリアできなかった。
- ・運搬費、参加費の交通費に費用がかかりすぎるため。
- ・中間層へ積極的に呼びかける企画が立てられなかった。
- ・興味のない人に来場してもらえなかったので、違う取り組みもしていきたいです。

⑪事業を実施して今後取り組みたいと思うことはありますか

- ・メンバーを増やしたい。(×4)
- ・世代間交流事業の範囲を広げたい。

- ・食を通じた居場所運営の定例化。
- ・子どものレスパイトケアとして、個別の対応や宿泊を団地施設で継続して行なっていくこと。
- ・認知症の人たちが作成したものをアピールし、販売機関や協力者を得ていく。
- ・事業者間の連携を強めたり、次世代育成のための交流会を継続的に開きたい。
- ・保護者・支援者のストレスマネジメント
- ・現在は年会費をもらっての無報酬体制なので、活動者へわずかでも何らかの報酬が渡せる出来るシステムへ移行したい。
- ・団体の会員を、多様化させ、より広範な相談に対応したい。
- ・地域の高齢者の健康に対する意識改革の運動に取り組みたい。
- ・手話や点字学習会など、盲ろう者のコミュニケーション方法を学ぶ場の開催事業
- ・人と犬が共生社会を目指すと、今以上に、宣伝、啓発が必要なので、それに向けて取り組みます。
- ・若者たちが自主的に企画するような場を作りたいです。
- ・いきいき百歳体操でサロンを有効活用し、地域の拠点づくりをしたい。
- ・これまでは保育所など子ども向けの施設等への訪問が主だったが、今年度は新たに老人介護施設等へも訪問することができ、異なる反応を得ることができた。地域に根差し、吹奏楽を通じて地域の人たちに広く音楽の楽しさを知っていただくため、今後ますます活動を広げていきたい。
- ・助成金を使って、こども食堂を実施でき、地域の方々と団体として交流ができた。
- ・「こむりんく」を通じて、他団体との単発的なコラボのような取り組みへ、無理ない程度にトライしたいと思った。
- ・病院ボランティアを今後も社会に定着させていくための方策と、活動をより活性化させる取組み。
- ・生活キャンプの継続、費用の参加者負担を軽減・スタッフの謝金充実

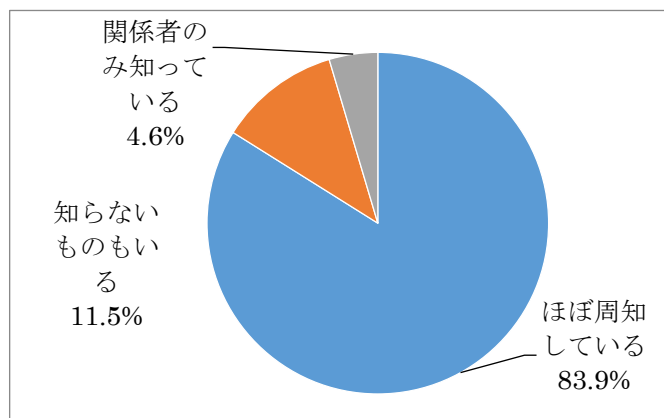
⑫振興基金の交付を受けたことで得られた効果について（複数回答あり）



	団体数 (団体)
団体のメンバー（活動者）が増えた	25
実施事業や既存事業の参加者が増えた	23
他団体と協働することができた	32
活動（事業）が拡大した	39
その他	13
特になかった	10
合計	142

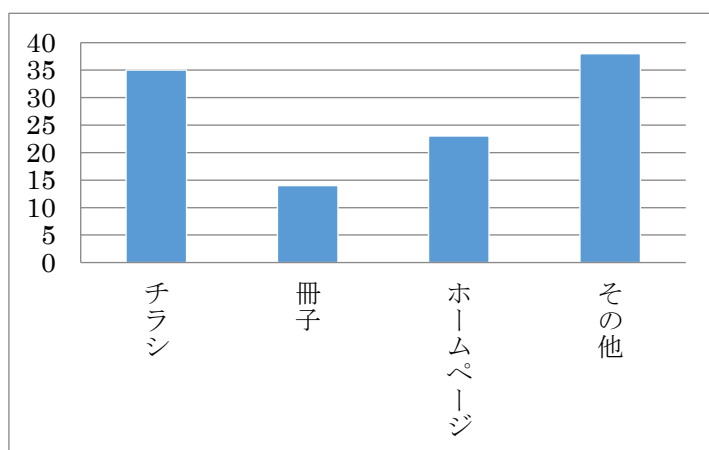
効果として、事業の拡大、協働できた、活動者数の増加、参加者が増えた順となっている。

⑬振興基金の交付を受けたことの内部会員の周知について



	団体数 (団体)	割合 (%)
ほぼ周知している	73	83.9
知らないものもある	10	11.5
関係者のみ知っている	4	4.6
合計	87	100

⑭振興基金交付を受けたことの外部周知をどのようにしましたか（複数回答あり）

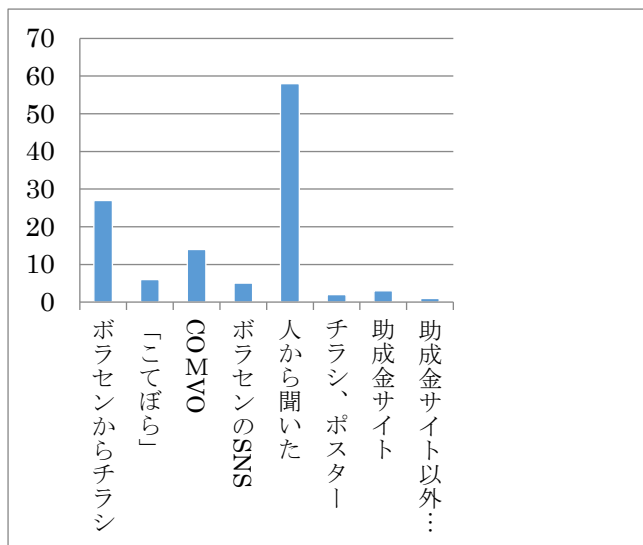


	団体数 (団体)
チラシ	35
冊子	14
ホームページ	23
その他	38
合計	110

【その他 内容】

- ・ 総会、役員会、会議の場で報告
- ・ 年の収支報告
- ・ フェイスブック、団体パンフレット、会報・ニュースレター
- ・ 事業打合せ時、担当者に伝えている
- ・ 口コミ
- ・ 地域の広報誌、ミーティング

⑮振興基金は何で知りましたか（複数回答あり）



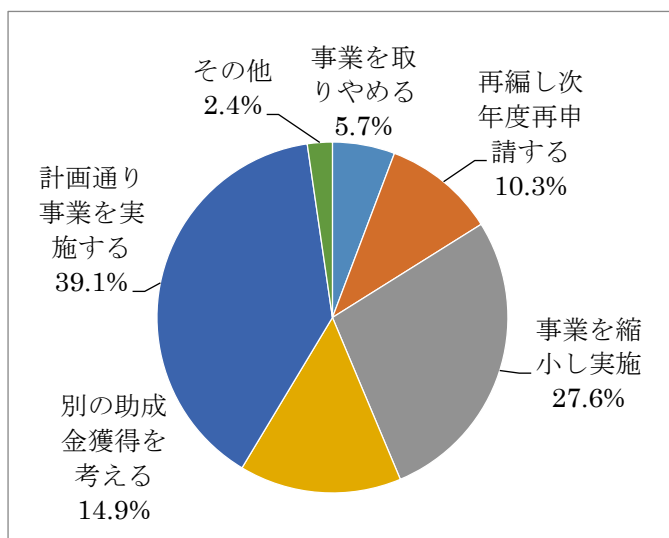
	団体数 (団体)
ボラセンからチラシが郵送されてきた	27
メールマガジン「こてぼら」	6
情報誌 CONVO	14
ボラセンのソーシャルメディア※a	5
人から聞いた※b	58
チラシ、ポスターを見た	2
助成金サイトで調べた	3
助成金サイト以外のサイトを見た	1
合計	116

【※内訳】

※a ソーシャルメディア：ホームページ 4、フェイスブック 0、ブログ 0、ツイッター 0、未記入 1

※b 人から聞いた：市ボラセン職員 8、区社協職員 27、区役所 16、その他 6、未記入 1

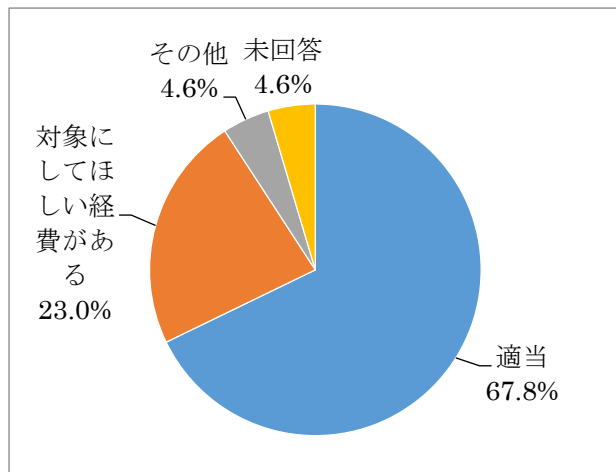
⑯振興基金が不交付だった場合の対応について



	団体数 (団体)	割合 (%)
事業を取りやめる	5	5.7
再編し次年度再申請する	9	10.3
事業を縮小し実施	24	27.6
別の助成金獲得を考える	13	14.9
計画通り事業を実施する	34	39.1
その他	2	2.4
合計	87	100

基金が不交付であった場合でも、何らかの形で事業を実施する団体は7割以上だった

⑰事業対象経費について



	団体数 (団体)	割合 (%)
適当	59	67.8
対象にしてほしい経費がある	20	23.0
その他	4	4.6
未回答	4	4.6
合計	87	100

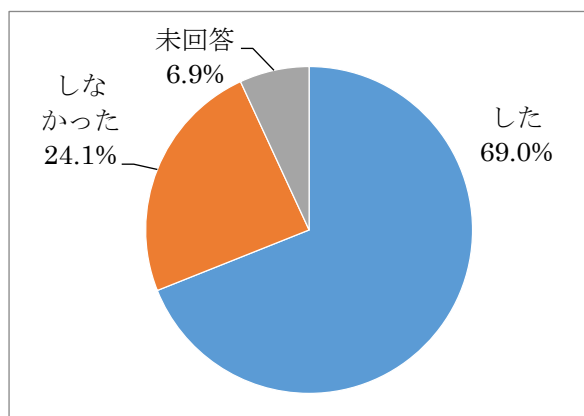
【対象にしてほしい経費（自由記述）】

人件費（×5）、講師料（×3）、交通費（×2）、備品購入、DVD、借用券、練習会時の講師への交通費や昼食費、家賃・室料、旅費、自主公演の印刷製本費、養成費用、材料代、交流会

【その他意見】

- ・オーケストラなど予算が必要な団体は、もう少し増額して欲しい。
- ・家賃の10%負担はきつい。
- ・内部の人間でも専門性のある技術を使った業務については謝金を。

⑱申請についての相談



	団体数 (団体)	割合 (%)
した	60	69.0
しなかった	21	24.1
未回答	6	6.9
合計	87	100

相談した（相談先※複数）	
市ボラセン	27
区社協	29
区役所	12
その他	2
合計	70

相談しなかった（理由）	
相談しなくても記載できた	17
相談したかったがどこにして良いか分からなかった	0
時間や場所が合わなかった	2
相談しにくかった	1
その他	1
合計	21